

第 3 回外国人市民サミット要旨

日時： 2011 年 7 月 2 日（土）午後 1 時 30 分～4 時

場所： 大和市役所 5 階研修室

参加者： 外国人市民 21 名 / 日本人市民 11 名 / 大和市 6 名 / 財団法人大和市
国際化協会 3 名

第 1 部 大和市に住んで感じること・望むこと

フィリピン出身

先日、市立病院に入院していた義父が他界した。死亡届を提出したが、年金、後期高齢者医療保険、三級障害者などの届出は別々の部署に提出しなければならない。ヨコの連携をとって簡単にできないものか。

ペルー出身

大和市は第二のふるさと。大和市は外国人のために住みやすい環境を整えてくれて、外国人にとって魅力的。

しかし、2 年前の世界不況で多くの外国人が仕事を失った。生活保護を申請する人もたくさん出てきた。はっきりと言うと、だまして生活保護費を受け取る人もいる。私のような外国人にとって、恥ずかしい。生活保護の申請には厳しくあってほしい。

韓国出身

公立保育園や私立幼稚園について、手続きはいつ始めればよいのか、願書はどこにあるのか、良く分からない。自分の子どもが 3 歳になった頃、慌ててあちこちに願書をもらいにいったことがある。小学校の情報は市から得られるが、保育園、幼稚園の情報は非常に少ない。

ブラジル出身

外国人との交流の場としてサミットや外国料理を食べるイベントだけでなく、スポーツや外国人を含めた運動会をやってほしい。

中国出身

大和市に以下の 3 点を要望したい。

電子証明書の有効期限を住民基本台帳カードと同じ 10 年に統一してほしい

自宅のパソコンでできる所得税の電子申告時に必要な電子証明書の有効期限はわずか 3 年しかない。1 枚のカードなのに機能によって有効期限が異なり、利用者に分かりにくい。

コミュニティバスの西・東ルートを拡大し、時刻表を誰でも分かるようにしてほ

しい

現在は南ルートと北ルートがある。大和市は地理的に南北に広がっているとはいえ、西側と東側はとても不便。

ご年配の方のために交流の場を提供してほしい

最近、南林間にある横浜植物防疫所に移転のうわさがある。その跡地を市が買い取って、貸し農園やお年寄りのコミュニティセンター、子どもたちの遊び場として活用していただきたい。

フィリピン出身

この封筒はがん検診のお知らせ。日本人だったら分かるが、外国人はすぐにごみ箱に捨ててしまう。なぜなら、日本語が全然読めないから。

私は病院で働いているが、外国人の患者にこの封筒に書いてある市役所のマークを見せて「これは市役所からのお知らせですよ」と説明している。毎年説明しているが、毎年変わるのでまた最初から説明する。毎日何人かの外国人が来るが、すべて最初から説明する。

また、肺炎の予防注射の助成対象は5歳までだが、外国人が病院に来るときにはもう5歳を超えていることもある。私は、大和市が外国人のために一生懸命がんばっていることを知っているのととてももったいないと思っている。

日本出身（韓国）

今回初めてサミットに参加している。こうやっているんな外国人の方々が参加することは大事なことだと思う。

ペルー出身

子どもが自閉症であると言われて、どこに連れていけばいいのか、子どものために自分がどうすればいいのか分からず悩んでいる。自閉症などの子どもを持つ外国人の親もいる。子どものリハビリのためにペルーに帰ったが、大和市でもリハビリができるようになればありがたい。

台湾出身

以前住んでいた成田市では国際交流協会では料理や文化交流などいろいろなことに関わって楽しかった。大和市でも中華関係と日本の関係の文化交流をやっていきたいと思っている。

カンボジア出身

最近、大地震が起こって帰宅困難者になってしまった。もし、この近辺で大災害が起こったら、自分の家族さえ助けられないと思う。

市長はじめ職員の皆さんは外国人の支援に関して大変だと思うが、子ども、教育について力を入れてほしい。1世、2世が成功しなくても、彼らの子どもは必ず日

本にとっていい人材になるはずだ。

フィリピン出身

子どもの教育について、NPO 法人日本ペルー共生協会（以下、「アハペ」）に助けていただいた。「子どもは外国人登録証がないので、学校には行けない」と思っていたが、アハペから促されて市役所に相談に行ったところ、「外国人登録証がなくても学校に行ける」とのことだった。つまり「外国人登録がなくても子どもは教育を受ける権利がある」ということだ。

また、外国人に何をするかでなく、「私たち外国人が何をできるか」考えたい。例えば、月に一回くらいこんな集まりがあっても良い。

日本出身（ラオス）

日本の教育を受けて育ち、何一つ不自由を感じていない。しかし、子どもの頃から疑問に思っていたことだが、光化学スモックなどの放送（防災無線）が聞きづらい。

中国出身

困ったことは飛行機の騒音が非常に大きいこと。厚木基地に近いので仕方ないとはいえ、市民の健康、特に子どもたちのことを考えて、少しでも改善していただきたい。

また、小児医療費助成制度について、大和市では小学生までと決まっているが、自治体の中には中学生まで助成するところもある。同じ日本に住んでいながら、住む場所によって待遇が違うことに疑問を感じる。

ペルー出身

日本語教室に通う子どもたちのためにサッカーチームをつくった。練習をするためには、1～2か月前から予約しないといけない。そのため、練習を始めようと思った時に練習できないことがある。そのようなときは、公園などで練習するが、サッカーのできない公園が多く、困っている。

また、私は算数、数学の指導をしているが、たし算、ひき算、かけ算、わり算のできない中学生がたくさんいることに気がついた。大和市で教育制度を変えることができるのであれば、例えば、テストで半分以下の点数を取れば、落第する仕組みにするのはどうか。そうすれば、子どもは落第しないように一生懸命勉強すると思う。

中国出身

現在、ある国際機関で被災地にいる外国人の帰国支援の仕事に携わっている。外国人市民は情報に接する機会が日本人市民よりも少ない。特に大災害が起きたときには、パニックになってどこにいけばいいのかわからないことが考えられる。日本人であれば普段からいろいろな情報が伝わってきて、自分からいくらでも調べるこ

とができるが、外国人はそうではない。

市では災害時の要援護者の名簿をつくっているのではないかと思う。外国人登録している人をその要援護者の名簿に入れることを検討できないかと思っている。

ラオス出身

神奈川県で日本語指導協力者として働いている。ラオス人やタイ人の子どもたちで日本語がまだ十分できない子が対象。学校からの手紙の翻訳、面談の通訳をしている。給料は時給。

困っていることがいくつかある。台風や大雪、交通機関のトラブルがあった日、子どもが休んだ日、保護者が来なかった日など、そういう日は収入ゼロになる。面談の時間も一定ではなく、ときどき土日もある。相談者が多い時、通訳の時間がオーバーした時はボランティアになる。

外国人は言葉のハンディがある。私のような日本語指導協力者と学校の先生とは立場が違う。経済的に差がある。しかし、先生方は「日本語指導の協力者の時給は高いね。税金をたくさん使っているね」と言う。私が払っている税金は誰が使っているか知りたい。また、大和市の所得税は高いので安くしてほしい。

ペルー出身

11歳の時に来日した孫がいる。通訳や翻訳をしているときには問題を感じなかったが、自分の家族の立場になってみるといろいろな問題を感じる。例えば、教育制度が日本と他の国とで違うこと。一つは落第がない。また、親たちは日本語が分からないため、子どもたちのサポートができないし、教育制度もよく分からない。親が「勉強しなさい」と言っても、子ども自体どうやって勉強したらいいのか分からない。

日本で生まれた子どもであっても家庭内で外国語を使っている場合、小学校に入ったら全然日本語が分からない。「小学校にあがる前の段階」で日本語教育の支援ができるように市が取り組んでほしい。日本では中学校までは義務教育で落第がなく、高校に入ると落第があります。また、高校に入るための試験があります。こうした教育制度については親も子どもも分からない。

神奈川県内には高校進学ガイド（進学説明会）があり、中学三年生とその親が参加する。しかし、中学三年生だともう遅い。私は進学ガイドに通訳として参加したが、高校進学に関しては小学校が終わった段階で進学ガイドが必要だと思う。

中国出身

日本に来て、日本の良さがよく分かった。中国にいた時には貿易関係の会社で働き、いろいろな国に滞在した。私はその後、日本に留学しました。

子どもたちの方が先に日本に来た。娘と息子が小学生のときだった。はじめは困ったことがあった。息子は仲間がないので、休み時間にひとりトイレで過ごす聞き、失敗したかなと思ったこともある。しかし、今振り返ってみると良かった。

息子も娘も今、日本で頑張っている。

ベトナム出身

私には一つの望みがある。数年前に私の母が70歳になった。大和市では、70歳以上の方はバスを利用する時にバス代を減免しているが、それは日本人だけ。外国人は難民であってもその福祉制度を利用できない。70歳以上の外国人でもバスの減免制度を利用できるようにしてほしい。

パラグアイ出身

大和市は各小中学校に国際教室があったり、保育園や学校にスペイン語を話す先生がいたり、国際化協会にいろいろな言語の通訳員がいる。外国人にとって大和市は便利だという声が多い。

しかし、いろいろな問題や不満が起きている。その中でも特に2年前の世界不況のときから、生活保護を受ける外国人が多くなった。大和市は全国的にみても生活保護受給者の割合が一番多いと聞いたことがある。それは本当かどうか分からないし、もちろん、本当に生活保護を必要としている人もいるが、悪用して受けている人もいる。

そこで市長さんにお願ひがある。もう少し生活保護の受給認定を厳しくしていただきたい。1～2回の面接で認定することはやめていただきたい。

私たちは、特にラテン系の方はそうですが、日本での目標を2年としている。こうした生活保護を受けている人たちに財産がないとは私には思えない。もう少し厳しく、できれば「何年、何カ月」など支給期間の制限をつけてほしい。

第2部 東日本大震災を受けて感じたこと

アルゼンチン出身（以下、「司会」）

あれだけの大きな災害は誰にとっても大きなショックだった。世界中に情報が発信され、日本のメディアも行政当局も何をどうやって伝えたらいいのか分からず大変だった。

第1部で情報の配信についての指摘があったが、私の知る限りでは、3月12日からほとんどの国際交流協会や相談窓口のメンバーたちがスペイン語、ポルトガル語、英語、中国語、タガログ語などで最低限の情報を配信していた。しかし、問題はそれにアクセスしていたかどうか。

例えば、南米への情報はほとんど欧米から来るもの。それが何倍にも膨れ上がって、南米にいる人は「日本にいる人はほとんど死んでしまっているんじゃないか」と思ってしまった。しかし、海外の人はあの映像を毎日のように見せられたので、仕方ないところもある。

外国の中には同胞の救出のために、日本に軍用機を送ってきたところもあった。南米や欧州各国はチケットを手配したり、関西方面に行けるように便宜を図ってくれたり、隣国へ避難できるように対応したりと様々な対応をしてくれた。皆さんもここに住んでいる以上、様々な情報が手に入ったと思う。何をしたら一番いいのか、安心なのか。われわれ外国人は日本に住んでいる以上、自分自身もそうだが、本国にいる家族や友人に安心を与えなければいけない。この課題を今回突き付けられた。

パラグアイ出身

私がこの震災で感じたことは、このような大地震が起きると孤立してしまうんだな、ということ。地震が起きた何秒か後に、自宅や娘に電話をかけても全然通じなかった。本当に地震が起きた時は自分が何をすればいいのか分からなくなってしまう。言葉の分からない外国人はもっとパニックになるのではないか。

大事だなと思ったのは、地元の自治会に加入していた方がいいということ。もちろん、私は前から加入しているが、私たちは外国人に対して自治会が本当に必要だということをもっと伝えていくべきなのではないか。

ベトナム出身

災害があったときにはベトナム大使館は何も助けてくれない。自分の日本語で対処するしかない。

ビックリしたのは、どこに行っても米がないこと。いろんなスーパーを回ってみたが、米だけでなく、パンやインスタントラーメンもなくなっていた。スパゲティまでなかったのは異常。そのようなことに備えて食糧の確保が大事だと思った。

中国出身

今回の大震災で感心したのは、これだけの大地震にあっても日本人は混乱するこ

となく、落ち着いているということ。これは本国の人に伝えたい。どうしても信じたくないのは、日本政府の方が一般の市民よりも落ち着かないこと。

3月に永住の手続きをした。地震の後、妻からは中国に帰ろうと言われたが、絶対帰らないという逆の選択をした。日本が大好きだから。

ペルー出身

地震の後、電話しても家族とつながらなかった。また、住んでいるところの避難所は分かるが、職場周辺の避難所は分からないことに気づいた。

本国の人もインターネットの映像を見て、こちらに連絡を取りたくても電話が通じなかった。職場の仲間はフェイスブックで家族に無事を伝えられた。私もフェイスブックを通じて大丈夫だと伝えることができた。

ラオス出身

私は戦争から逃げた経験、難民キャンプの経験がある。日本に来て地震を経験した。「地震」があっても、生きる「自信」がある。

もし、大きな地震がきても自分にコントロールをする。準備するものも買い込むのではなく、毎日の生活に必要なものを準備しておく。外国人はネックレスやブレスレットなどの飾り物をするが、それはおしゃれではなく財布の代わり。何かあったときはお金にかえることができる。

中国出身

地震直後から、ある国際機関のケースワーカーとして外国人被災者の帰国支援している。被災地の自治体ではホームページなどに被災者の名簿を載せているが、そこから外国人らしい人の名前を探して、その方に電話して支援用の申込書を送ったりしている。

ケースワーカーにはいろんな言語の方がいて、それぞれ専用の携帯電話を持っている。でもなぜか1か月くらい全く電話がこなくて、どうすればいいのか分からず困っていた。

5月下旬になってようやく問合せが来た。なぜ5月になってから問い合わせがあるのか知りたくて、みなさんにいつこの支援の情報を知ったのか聞いてみた。すると、ほとんどの人が昨日とか1週間前という回答。つまり、全く情報が伝わっていなかったということ。

例えば、市役所の方が実際に来て、支援を受けることができるという内容のハガキを被災者が直接受け取るというケースがあった。しかし、市役所の職員も多くいるわけではないので直接支援する活動は難しい。でも、やはり市が外国人の所在地を一番把握しているので、そのときに外国人登録名簿を活用できないものかと思う。

ペルー出身

地震の1週間後にフェイスブックに書き込みをした。家族や友人からは「まだ生

きているのか」と冗談半分に言われた。それから「また大きな地震が来るかもしれないから早くペルーに戻ってこい」と言われた。でも、自分に対して日本はいろいろとやってくれたので最後まで残ることを決めた。

中国出身

日本に来て初めての大地震。何をすればいいのかわからず、ただテレビを見ているだけだった。その後、主人が仕事の関係で気仙沼に行き、そこで撮った写真を見た。地震後の状況や近くで起きている出来事を聞いてすごくショックだった。

しかし、そのおかげで防災の意識が強くなった。防災セットを買って自分で使ってみた。今も自宅に置いている。

日本出身（ラオス）

前々から母親に「日本人が逃げる時が一番やばい時だ」と教わっていた。放射能は大丈夫かと聞いたら、「死ぬときはみんな死ぬんだから」と言っていた。

フィリピン出身

地震の時は、子どもが学校にいて、学校に電話しても連絡がとれなかった。結局、一時間後にフェイスブックを通じてみんなの無事が分かった。それから隣近所から子どもの無事を知らせる連絡があった。それは日本人のいいところ。

毎週水曜日に76.1Mhz（インターFM）でタガログ語放送がある。他の言語でも放送しているのでぜひ聞いてほしい。

宮城に友人がおり、一週間後に何が足りないのか直接聞き、食べ物、服、赤ちゃんのミルクなどを送った。私の子どもは日本とアメリカのガールスカウトに入っていて、そこでもバックパックにおもちゃや洋服などを入れて宮城に送った。逃げるのではなく、助け合いが大事。

司会

先日、秦野市の防災ワークショップに行った際、防災のスペシャリストが「津波の時は逃げる、津波でない時はじっとしてろ」と言っていた。特に車で動くな、と。「緊急の時は消防車、救急車が動けなくなって迷惑だから」と言っていた。なぜなら、日本は人口密度が高いから。ラテンの人間はパニックになってパァーッとすぐに動いてしまう。我々としても大きな教訓となった。

カンボジア出身

私は実際に帰宅困難者になり、家族と連絡がとれなかった。皆さんは携帯電話、ツイッターなどで情報を得ている。しかし、インドシナ難民をはじめとする外国人の貧困層は情報が全く入らない。そうした外国人を防災訓練に積極的に参加させることが大切。ただし、日本語の壁があるので、できるだけ各言語に翻訳してチラシを配布したり、案内したりすることが必要。

それから防災具、食糧、医薬品を準備している人は10%もないと思う。市長も頭が痛いと思うが、行政が主導して、できるだけ低所得者、高齢者、障がい者などに防災グッズを提供してほしい。

日本出身

ちょうど外国人の子どもの日本語教室をしている時に地震が起きた。必要と感じたのは、その教室の避難場所はどこか、先生は子どもをどこに連れて行くか、保護者に伝えておくということ。その後、資料をまとめて保護者に伝える作業をすぐに始めた。

日本出身（韓国）

当日は携帯電話が繋がらなかったが、PHSだけはつながった。その後、会社がみんなPHSになった。

フィリピン出身

初めての経験でビックリした。子どもたちは学校で訓練を受けている、しかし、子どもたちが学校にいないくて、親も仕事で家にいなかったらどうすればいいのか、分からない。

司会

本来は、学校に残るのが一番いい。ただ、あの時点では判断できなかった。学校によっては保護者と連絡をとっていたところもあった。しかし、携帯電話が通じなかったので混乱してしまった。

日本出身

先ほど日本人は大地震が起きても冷静だったという話があったが、パニックについては日本人の中でも差がある。日本は地震が多いので地震に慣れていて、唯一の被爆国ということから放射能についても多少の知識があった。

私は大学の他に教会にも所属している。71カ国の外国人市民が大和に住んでいるが、教会も多国籍。彼らに聞いてみると、放射能のイメージはヒロシマ、ナガサキに落とされた原爆。それでパニックになった。

フィリピン出身の方に言われたのは「自分たちは避難訓練をやったことがない」ということ。災害が起きた時にとるべき手順が頭の中に全くない。日本人なら「自分の頭を守る」「机の下に隠れる」というような避難の手順を知っている。しかし、そうした経験が外国人の方にはない。当然、対処の差が出る。

「携帯電話が通じなくなった」というのも、結局は全員がパニックを起こして一斉に電話をかけたから。

「スパゲティがなくなった」という話も出たが、一概に日本人が冷静だったとは言えないところがある。普段買う量の1.5倍買ったからなくなったのだろう。普段

よりちょっと余計に買うと全部なくなってしまう。そういうことをわれわれ日本人自身が冷静に受け止めて、「お互いに共生できる安全で安心な環境をつくるにはどうしたらいいのか」一緒に考えていく時期に来ていると思う。

司会

今回、われわれスペイン語圏の人間は、「日本の小学校の子どもたちの避難ルート、子どもたちが持っているものを信じて、それに従って動け」というアドバイスをしている。

ただ、日本でも携帯電話が通じなくなったことなどパニックになったところがある。しかし、スペイン語圏でも、特にペルーは地震国。チリもアルゼンチンも同様。われわれが地震にあったときに動かないのは「盗まれるから」。略奪が起きるのを心配して動かないから被害が出てしまう。日本の場合、避難の手順があるのでこれを守れば助かる可能性が高くなる。

日本のメンタリティが分からない人は、あわててしまう。被災地域でも外国人がパニックになってしまった。われわれもまだまだ学ばなくてはいけない。

中国出身

ここで一つ質問。「日本で一番安全な原発はどこか？」

実は福島第一原発。なぜなら、燃料が溶け、格納容器も壊れ、爆発の危険がないから。でも、他の原発は地震、津波や想定外の災害によって爆発してしまう可能性が十分にある。その時、国民はどこに逃げるのか。

もう一つ質問。「汚染された土地で安全な食べ物をつくれるか？」

私は作れない。では、本当の応援とは何か。被災地の食べ物を食べてみんな病気になることなのか。誰がこの国を助けるのか。本当の応援は「被災地の土壌をきれいにすること」だと思う。みんな健康な体であれば、将来日本は立ち上がることができる。今みんな汚染された野菜を食べていて、私は心が痛い。でも、みんなと一緒に頑張りたい。

ブラジル出身

大和市で大きな被害が出た場合、どこに避難してよいのか分からない。日本人の方は分かっているのかもしれないが、外国人の多くは分かっていないと思う。

韓国出身

日本での生活が長くなるとともに地震にも慣れてきた。そんなに驚いたりしてはいない。しかし、韓国にいる母親はこちらへの電話がなかなか通じず、余計に心配していた。向こうのマスコミが大げさに報道しているせいか、親から「子どもたちを連れて帰ってきなさい」と言われた。人が住めるところではないと思っているようだ。

ペルー出身

これから私たちは外国人として何をすればいいのか、考えないといけない。これまで何度も国際化協会が外国人のための防災訓練を企画してきたが、人数が少なかった。私も参加したことがあるが、片手で数えられるくらいの人数だった。

子どもたちは学校で訓練をしているが、私たちはそのような習慣がない。問題は親。親が何をすればいいのかわからない。

私は9階に住んでいて、当日は大きな揺れを感じた。ゆっくり外に避難すること、あわてないことが大切だと今回思った。

フィリピン出身

東日本大震災が起きて、日本人も外国人もすごく変わった。津波と地震が起きた後、多くの外国人が本国に帰った。そのことについて私の主人が怒っていた。景気のいい時にはみんな日本に行きたい、日本で働きたいという夢を持っていたのに、地震が起きた後になぜ逃げたのか、ということだ。

司会

入管統計が出ていて、多くの外国人が出国しているのは事実。ただ、いろんな人がいる。私もカチンときたのは、肝心の大使館員たちが一番先に逃げたこと。一部の人々が本国政府の命令で関西地方に避難したのは分かる。しかし、大使館員がいなかったら誰が同胞を守るのか。

また、一般の日本に住んでいる外国人に関しては、本国の親、親戚がものすごく心配しているため、一時的に何十万人という人が帰国した。ただし、一か月後の統計をみると、相当の人が再入国している。これは、落ち着いてくると戻ってくるということ。例えば、研修生とか留学生など完全に帰った人も確かにいる。これだけの震災なので多少は仕方がない。

先ほど話があったように、なぜこういうときに帰るのかという意見はあるかもしれない。しかし、一ヶ月間くらい本国で様子を見るというのも一つのあり方だし、小さいお子さんがいる家庭など、一時的な避難としては必要だったと思う。いろんな教訓がある。

今回の地震は大きな教訓をみんなに与えたと思う。大和市国際化協会では今年度何回か防災関連の行事を行う予定。ぜひ近くの同胞たちに伝えてほしい。やはり、情報を持っていないと助けられるものも助けられない。みなさんからの意見、指摘を参考に大和市の行政でもこれから対応に当たっていくと思う。